

# 道の駅めぐみ白山のSDGs商品プロモーション事業

団体名●新ゼミナール／代表者名●新広昭(副学長・経済学部教授)

## はじめに

本事業は、白山市と本学との包括連携協定に基づいた事業の一環として実施しているものである。

白山市は国の「SDGs未来都市」に認定されているが、その大きな目標として掲げているのが「白山手取川ジオパーク」のUNESCOによる国際認証である。UNESCOから認証の条件として示されているのが産学官市民のパートナーシップによって認証に向けた大きなムーブメントを起こしていくことである。

そこで、新ゼミナールでは地域資源(特産品、文化、歴史、コミュニティ等)の集積及び情報発信拠点としての道の駅の機能に着目し、国道8号線沿い白山市宮丸地内に立地する「道の駅めぐみ白山」(以下、めぐみ白山)で販売されている白山麓地域を中心とした地元特産品のSDGs側面を、観光客等の来店者にアピールするプロモーション活動を展開し、国際認証の一助とすることを目的として本活動を行った。

## 活動内容

活動は2022年7月16日に現地視察、8月19日にPOP作成のための調査及び動画の作成、9月6日に作成したPOPの掲示を行った。

### ①地元特産品のSDGs商品としての情報発信活動

めぐみ白山の物販コーナーで販売されている地元特産品の原材料、生産方法、生産者、商品の特徴などを学生が調査し、SDGsの17項目の目標と紐づけ、ボン菓子、フリルレタス、加賀ほうじ茶など7品目のオリジナルPOPを作成し商品の陳列スペースに掲示した。

### ②白山手取川ジオパーク観光スポット紹介動画作成

道の駅を訪れた方々に白山手取川ジオパークへの興味を持ってもらうための観光スポット紹介動画を作成した。作成した動画はYouTubeでの配信を考えている。



POP (ボン菓子)



POPの掲示

## 成果、結果の考察

ゼミ生は道の駅めぐみ白山が持つ機能の一つに災害時の避難拠点としての機能があることを知り、そのことをもっと多くの人に周知していくことが地域のレジリエンスを高め、SDGs11番の「住み続けられるまちづくりを」につながると強く感じたようであり、道の駅はSDGsの推進に多様な役割を持つという学びができたのではないと思う。

## 今後の課題、展望

白山市では大学との連携事業をSDGs未来都市実現の重要な取り組みと位置付けていることから、本学の多様なゼミナールの参画を得て継続・拡大していきたいと考えている。